



[文化・芸術のまち京都]

歴 2-21 (R03)

去風洞は、江戸時代の中頃、当時尺八家として知られていた去風によって始められた華道去風流の稽古場でした。大正時代の終わり頃、去風七世一草亭が、当時の稽古場の見取図により、その一部を再現したのが現在の去風洞です。

去風七世一草亭は、陶器、漆器、竹花入、籠花入など様々な花入れに、名高い作者の作品を用い、自らもいろいろな花入を考案しました。なかでも有名なのは、桂川を下る筏の棹をもとに作られた水馴棹や、嵐山渡月橋から見渡す山々を模った桐板に、筏の花入をはじめ込み、九条武子自筆の歌「おのづから くだりゆくまゝ いつしかと はなのいかだに なりにけるかな」が、添えられた花屏風があります。

華道去風流は、現在去風十世に至り、今後も去風十一世によって続けられる予定です。

主屋は、2階建てで、玄関の奥に客間、次の間、相の間を経て、流祖去風の茶室を再興した花床を備えた「一時庵」へと続く配置となっています。一文字透かしの欄間、一草釘と呼ばれる土壁に直接釘を打って掛ける花、2階の半円窓などモダンな数寄屋造りが華道家など来訪者を楽しませます。



流祖去風象



一文字透かしの欄間

去風流

〒606-8412 京都市左京区浄土寺馬場町35

電話／FAX 075-771-0865

アクセス 市バス「浄土寺」下車すぐ

ホームページ <http://www.kyofuryu.com/>

※建物内部は、非公開です。